

## トピックス

### 夏かせ 4 疾患の流行状況（愛知県と全国の比較）（第 5 報）

手足口病 ヘルパンギーナ 咽頭結膜熱 無菌性髄膜炎

#### 現在の状況

先週（第 29 週）もお知らせしましたように、現在愛知県では手足口病、ヘルパンギーナ、それに咽頭結膜熱が流行のピークを迎えています。一方、全国的には、第 28 週の感染症週報（国立感染症情報センター発行）によりますと、これら 3 疾患に加え無菌性髄膜炎がピークに達しようとしています。しかしながら、無菌性髄膜炎の愛知県における今年の報告数は第 30 週末の 7 月 27 日までの累積報告数が僅か 8 例（第 23 週以降の報告数は 0 例）と非常に少ないものです。（全国では第 28 週現在の累積報告数 662 例、第 27、28 週の報告数はそれぞれ 75 例、97 例）この愛知県における無菌性髄膜炎患者の発生報告が非常に少ない事実は、様々な状況から判断して実際に患者の発生数が少ないのではなく、報告義務がある県内の基幹定点医療機関からの報告がきちんとなされていないことによると考えられます。感染症法に規定されている感染症の正確な発生状況の把握、及びそれに基づく適切な情報提供、流行対策、予防施策の実施に向けて、基幹定点（県内 13 個所の 300 床以上のベッドを有し内科・小児科を標榜する医療機関）の医師を始めとした関係者の方々の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。以下に、各疾患の愛知県と全国における現在の状況をお知らせします。

#### 1 手足口病

第 21 週（5 月 19 日～25 日）に先ず一宮保健所管内で定点（県内全体では 182 個所の小児科のある医療機関）あたりの患者報告数が 5.0 を越えたため警報が発令されました。その後、流行発生警報が発令される地域は増加を続け、第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）には、県内 17 の保健所管轄地域のうち 13 地域と、県内のほとんどの地域で警報が発令されました。第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）も同じ地域で警報が発令中です。

例年愛知県では 7 月をピークとする流行が繰り返されていますが、今年も同時期に当たる第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）の定点あたりの報告数は 6.69 と、感染症新法が施行され患者発生数が報告されるようになった平成 11 年以降としては、最も報告数の多かった平成 11 年度の最高値 3.91(第 27 週)よりも多くなりました。第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）の定点あたりの報告数は 4.6 と先週より減少していますが、平成 11 年度の最高値よりも多くなっています。

一方、全国における報告数は、第 27 週（6 月 30 日～7 月 6 日）の定点あたりの報告数が 3.93、第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）には 4.55 と増加しており、過去 10 年間（平成 5 年以降）としては、最も報告数の多かった平成 7 年の最高値（約 7.7）程ではありませんが、2 番目に多かった平成 12 年度の最高値（5.85）に迫ろうとしています。

## 2 ヘルパンギーナ

第 24 週（6 月 9 日～15 日）に師勝保健所管内で定点あたりの患者報告数が 6.0 を越えたため、警報が発令されました。その後、流行発生警報が発令される地域は増加し、第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）には、6 保健所管轄地域で警報が発令されました。第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）も同じ地域で警報が発令中です。

愛知県で平成 11 年以降最も報告数の多かったのは平成 12 年の第 27 週（最高値 6.8）で、例年同時期をピークとする流行が繰り返されています。今年も第 27 週（6 月 30 日～7 月 6 日）の定点あたりの報告数が 4.0 と最高値を記録し、第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）の定点あたりの報告数も 3.9 でした。第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）の定点あたりの報告数は 2.6 と、先週より減少しています。

一方、全国における報告数は、第 27 週（6 月 30 日～7 月 6 日）の定点あたりの報告数が 4.40、第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）には 5.28 と増加しており、過去 10 年間（平成 5 年以降）としては、最も報告数の多かった平成 13 年の最高値（6.61）に迫ろうとしています。

## 3 咽頭結膜熱

第 24 週（6 月 9 日～15 日）に豊橋市と知多保健所管内で定点あたりの患者報告数が 1.0 を越えたため、警報が発令されました。その後、流行発生警報が発令される地域は増加し、第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）には 5 保健所管轄地域で警報が発令されました。第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）には豊田市と岡崎市の 2 地域が加わり、津島保健所管轄地域が除かれたため、6 保健所管轄地域で警報が発令中です。

愛知県で平成 11 年以降最も報告数の多かったのは平成 13 年の第 29 週（最高値 0.77）で、例年同時期をピークとする流行が繰り返されています。今年も第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）には 0.63 と急激に増加しました。第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）の定点あたりの報告数は 0.57 と、先週より減少しています。

一方、全国における報告数は、第 27 週（6 月 30 日～7 月 6 日）の定点あたりの報告数 0.49 が第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）には 0.65 と増加し、過去 10 年間（平成 5 年以降）で最も報告数の多かった平成 13 年の最高値（0.56）よりも多くなっています。

## 4 無菌性髄膜炎

愛知県における患者報告数は、今年の 1 月から第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）までの累積で 8 例だけと非常に少ないだけでなく、第 23 週（6 月 2 日～6 月 8 日）以降は報告数ゼロと全く患者発生が報告されていません。（全国では第 28 週現在の累積 662 例、第 27 週と 28 週の報告数 75 例と 97 例）。

一方、全国的には第 27 週（6 月 30 日～7 月 6 日）の定点あたりの報告数 0.16 が第 28 週（7 月 7 日～7 月 13 日）には 0.21 と増加しており、感染症新法が施行され患者発生数が報告されるようになった平成 11 年以降としては、最も報告数の多かった昨年の最高値（0.50）程ではありませんが、2 番目に多かった平成 12 年度の最高値（0.24）と同程度の報告数と、過去 2 週間における患者発生数の増加が顕著となっています。

## 病原体検出状況

病原体定点（小児科定点に指定されている医療機関の一部）の医療機関の方には、今年の手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、及び無菌性髄膜炎の病原体ウイルス解明の為に是非積極的な検査検体の提出をお願いします。具体的な検体採取、提出要領は管轄保健所へお問い合わせください。

〔 昨年 の ウィルス 検出 結果 : 手足口病 ( 検査検体数 ( n ) = 45 ) ではコクサッキー A 16 が 約 90 % 、 エコー 13 型 が 約 10 % でした。ヘルパンギーナ ( n = 40 ) ではコクサッキー A 4 が 約 81 % 、 A 5 と A 10 が 各 約 6 % 、 A 6 と A 16 が 各 約 3 % でした。咽頭結膜熱 ( n = 1 ) からはインフルエンザ A 香港型 1 株が分離されました。無菌性髄膜炎 ( n = 216 ) ではエコー 13 型が 53 株、コクサッキー B2 が 3 株、その他のコクサッキーが 3 株とエコーが 2 株分離されました。 〕

7 月 8 日 現在、衛生研究所には手足口病患者 13 名からの各 1 検体が寄せられ、7 株のコクサッキー A16 型ウイルスが検出されています。また、ヘルパンギーナ患者 12 名 ( 各 1 検体 ) からは 6 株のコクサッキー A6 型ウイルスが検出されています。咽頭結膜熱では患者 1 名からの 1 検体が寄せられましたが、検査の結果は陰性でした。無菌性髄膜炎では患者 26 名 ( 基幹定点からの患者報告数は 8 名ですが、病原体検査用の検体としては基幹定点を含め 26 名の患者検体がよせられています ) からの各 1 検体が寄せられ、1 株のコクサッキー B2 型ウイルスと 1 株のムンプスウイルス 1 株が検出されています。現在 ( 7 月 30 日 ) までに 9 検体の陰性が確認されていますが、16 検体については現在も検査中です。( ウィルスの培養検査には 2 ~ 4 週間かかる場合があります )

一方、7 月 25 日現在の全国における手足口病患者からの病原ウイルス分離報告数は、エンテロウイルス 71 型が 52 株、コクサッキー A16 型が 20 株、コクサッキー A10 型とコクサッキー B 型が各 1 株、その他のコクサッキー A 型が 10 株となっています。

このエンテロウイルス 71 型による流行は 1997 年にはマレーシアのサラワク州 ( ボルネオ島 ) で、1998 年と 2000 年には台湾でみられ、死亡者 ( それぞれ 30 名、50 名 ) も出ています。我が国でも 2000 年には、手足口病患者から分離された病原ウイルス 749 株のうち、エンテロウイルス 71 型が 50 % 程度を占めていましたが、2001 年 ( 分離株数 390 株 ) 及び 2002 年 ( 同 422 株 ) にはコクサッキー A16 型が 70 ~ 80 % 程度を占め、エンテロウイルス 71 型は 10 % 以下でした。

下表に今年の 1 月以降全国のヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、及び無菌性髄膜炎患者からの分離されている病原ウイルス報告数を示しました。

全国のヘルパンギーナ患者から分離された病原ウイルス（7 月 24 日現在）						
コクサッキー ウイルス（型）	A10	A6	A4	A2	A12	A16
株 数	27	19	18	6	3	1

全国の咽頭結膜熱患者から分離された病原ウイルス（7 月 24 日現在）				
アデノウイルス （型）	3	2	7	その他
株 数	41	26	8	24

全国の無菌性髄膜炎患者から分離された病原ウイルス（7 月 25 日現在）				
ウイルス （型）	エコー 30 / 6 / 13 / 9	エンテロ 71	コクサッキー B1 / B2 / B4	ムンプス
株 数	25 / 16 / 1 / 1	5	7 / 6 / 2	11

以下に、小児、特に 4～5 歳以下の乳幼児が主として罹る手足口病、ヘルパンギーナと咽頭結膜熱の特徴を簡単にまとめました。

## 主な症状・感染源・感染経路

### 1 手足口病

最初、軽い発熱（高くても 38 台）、食欲不振、のどの痛み等で始まり、発熱から 2 日ぐらい経過したところから、手のひら、足のうらに、小水疱が多発します。水疱の周囲の皮膚は、やや赤みを帯びています。舌や口腔粘膜にも小水疱は多発して潰瘍状（アフタ）の生ずることもあります。伝染性のウイルス性感染症で、主にコクサッキー A16 型、エンテロウイルス 71 型などのウイルスによって発症することがわかっています。主な感染経路は、糞便などの経口、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。症例の約 40%では発熱しないといわれています。

### 2 ヘルパンギーナ

夏風邪の一種であるこの病気は主として 6～7 月頃に流行し、患者の年齢は 4 歳以下がほとんどですが、特に 1 歳代がもっとも多く、ついで 2、3、4、それに、0 歳代の順と言われています。

発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭に赤いリングを持つ小さな水疱があらわれ、それが破れて浅い潰瘍をつくりますが、解熱とともに治ります。

糞便から口を介してうつりますから、保育園など幼児が集団生活を送る場所での流行がよく発生します。

### 3 咽頭結膜熱

本疾患も夏風邪の一種で、主として 7～8 月頃に流行し、患者の年齢は 5 歳以下が 6 割程度を占めています。

発熱とかぜ様の全身症状を伴い、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎にともなう結膜充血などの眼症状を訴え、3～5 日間程度続きます。

感染経路は、ウイルスによって汚染されたプールの水を介した結膜への直接の侵入やタオルを介した感染、それに、咳・くしゃみなどによる飛沫、接触感染によるものです。

### 4 無菌性髄膜炎

細菌や真菌などではなく、ウイルスによって起こるために無菌性の名前が付けられました。

かぜ症状の後、熱が続いたり、一度下がった熱が再び上がり、激しい頭痛を訴え、はきけ・嘔吐を繰り返し、首が回りにくくなったり、硬くなる等の症状が現れます。一般的には小児がかかることが多いのですが、大人でも以前に同じ種類のウイルスに感染したことが無い場合には、この病気にかかってしまうこともあるため、家族内で小児から大人にうつることもあります。

ほとんどの場合、後遺症が残ることはありませんが、経過が長引くと、回復まで 2 週間以上を要するようになります。

主な原因としては、コクサッキー・ウイルス、エコー・ウイルス、エンテロ・ウイルス、ポリオ・ウイルスなどでかかります。

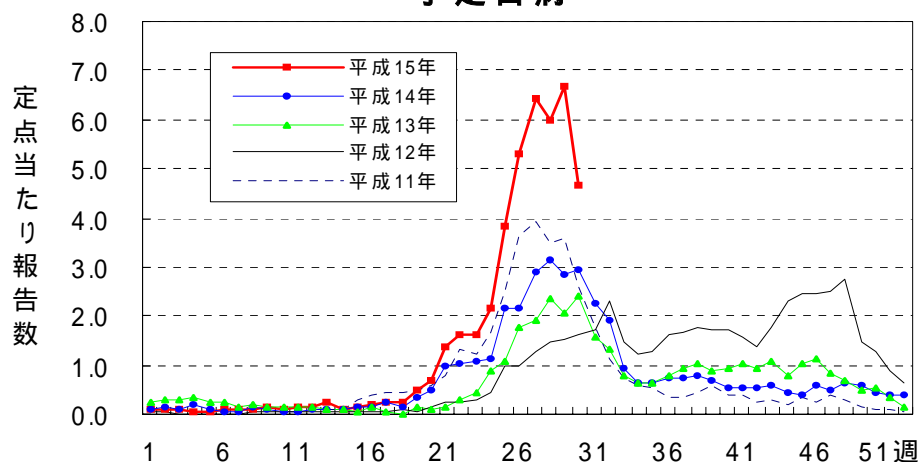
### 予防方法・主な合併症

手足口病では、水泡の中にウイルスが多く含まれるため、水泡をできるだけ潰さないようにすることと、内容液が出た場合は他に拡がらないように清潔に保つことが重要です。また、咽頭結膜熱では、プールを介しての流行もあるので、水泳の前後に必ずシャワーを浴びて病原体ウイルスを持ち込まない、持ち出さない注意やプール水の消毒の徹底なども大切です。4 つの疾患ともに感染しても症状の出ていない人、症状の出る前（潜伏期間）の人から、咳・くしゃみや糞便の付着した手・物などを介して感染することがありますので、便・その他の排泄物を扱った後や食べ物を食べる前の手洗い、外出から戻った時のうがい等の実施を、日頃から習慣付けることが大切です。ウイルスの便への排泄は症状が治った後も 3～4 週間ほど続きますので、この間は「おしめ」などからもうつる可能性があります。注意が必要です。

これら 4 疾患はいずれも一般的には軽症の病気ですが、ごく稀には重症化して髄膜炎、脳炎、心筋炎、気管支炎、肺炎などになることが報告されています。経過中に発熱が続き、嘔吐、頭痛、咳等などの症状がおこってきた場合には、速やかに医療機関を受診されることをお勧めします。

## 流行状況

### 手足口病

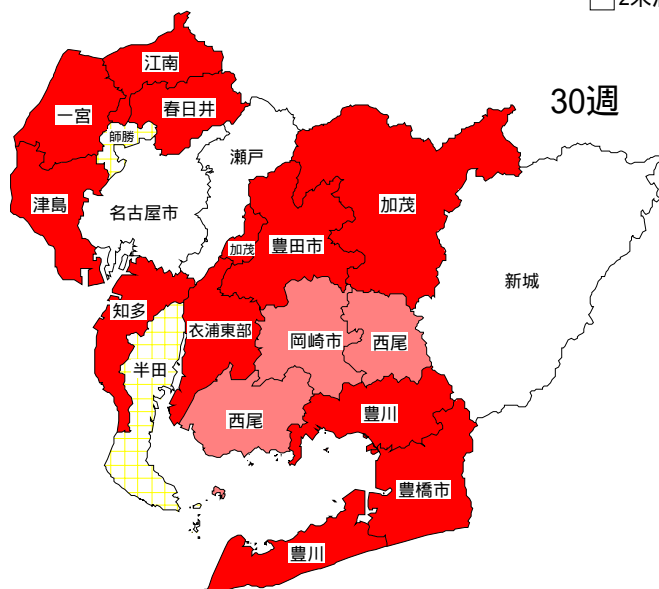
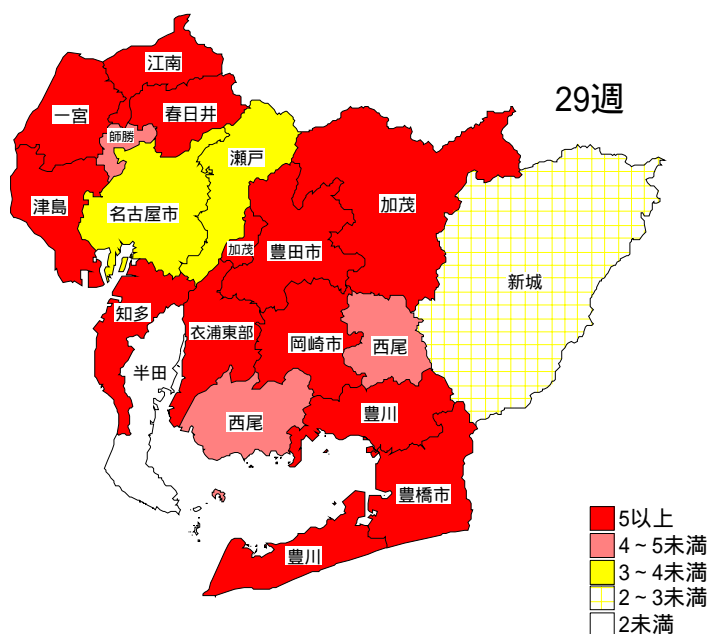


疾患名	前週	今週	備 考
<u>手足口病</u>	6.7 ↑	4.6 ↓	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
<u>ヘルパンギーナ</u>	3.9 ↑	2.6 ↓	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	0.95 ↓	0.87 ↓	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症 外から帰った時には、必ず手洗いとうがいをしてください。
<u>咽頭結膜熱</u>	0.63 ↑	0.57 ↓	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
<u>麻疹（はしか）</u>	0.03 ↑	0.06 ↑	予防にはワクチンが有効
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.38 ↑	0.31 ↓	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 5定点からコメントでの患者発生報告あり
<u>無菌性髄膜炎</u>	- →	- →	細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと 1定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
→ 横ばい	↑ 増加	↓ 減少

感染症についての説明及びグラフ総覧については、  
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。  
( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> )

## 手足口病の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

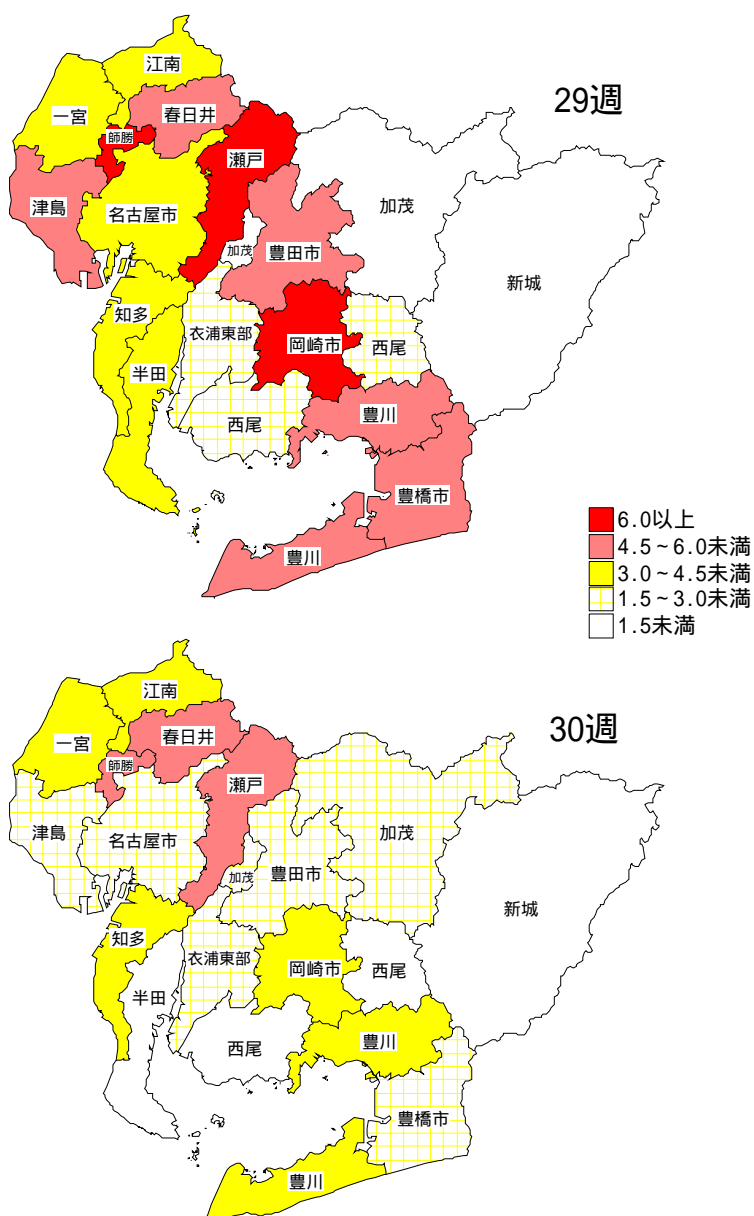


	30週	定点 当たり	29週	定点 当たり		30週	定点 当たり	29週	定点 当たり
名古屋市	120	1.71	213	3.04	岡崎市	29	4.14	57	8.14
瀬戸	15	1.67	30	3.33	衣浦東部	82	7.45	130	11.82
津島	66	9.43	115	16.43	西尾	20	4.00	20	4.00
師勝	9	2.25	19	4.75	豊田市	41	5.13	51	6.38
一宮	71	5.92	66	5.50	加茂	15	5.00	17	5.67
春日井	55	6.11	82	9.11	豊橋市	105	13.13	157	19.63
江南	54	9.00	66	11.00	豊川	110	13.75	146	18.25
半田	13	2.17	7	1.17	新城	1	0.50	5	2.50
知多	39	5.57	36	5.14					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる手足口病の流行発生警報は保健所(市)定点当たり5.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## ヘルパンギーナの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



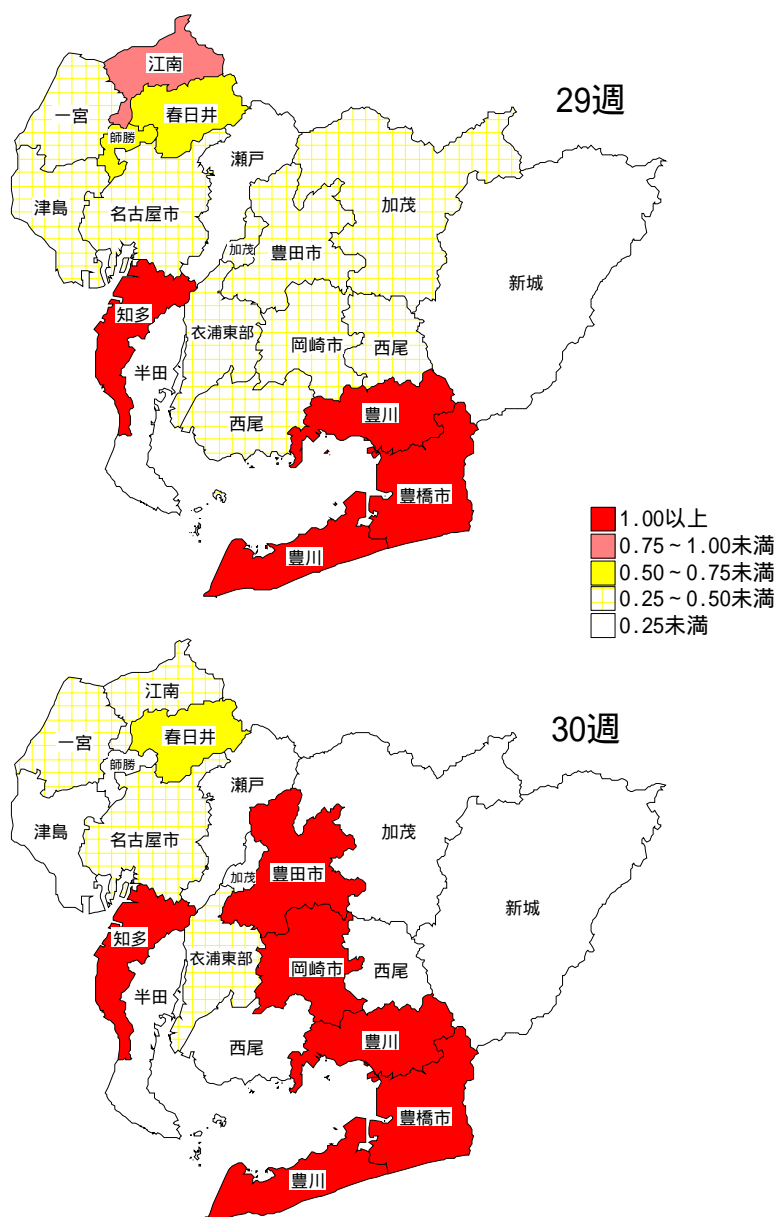
	30週	定点 当たり	29週	定点 当たり		30週	定点 当たり	29週	定点 当たり
名古屋市	131	1.87	217	3.10	岡崎市	28	4.00	42	6.00
瀬戸	44	4.89	65	7.22	衣浦東部	23	2.09	31	2.82
津島	19	2.71	37	5.29	西尾	6	1.20	8	1.60
師勝	23	5.75	37	9.25	豊田市	17	2.13	40	5.00
一宮	37	3.08	36	3.00	加茂	7	2.33	3	1.00
春日井	42	4.67	52	5.78	豊橋市	17	2.13	40	5.00
江南	21	3.50	24	4.00	豊川	28	3.50	37	4.63
半田	5	0.83	18	3.00	新城	0	0.00	0	0.00
知多	27	3.86	31	4.43					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるヘルパンギーナの流行発生警報は保健所(市)定点当たり6.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつづることが疑われるということです。



## 咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	30週	定点 当たり	29週	定点 当たり		30週	定点 当たり	29週	定点 当たり
名古屋市	29	0.41	31	0.44	岡崎市	9	1.29	3	0.43
瀬戸	2	0.22	2	0.22	衣浦東部	5	0.45	5	0.45
津島	0	0.00	3	0.43	西尾	0	0.00	2	0.40
師勝	0	0.00	2	0.50	豊田市	20	2.50	3	0.38
一宮	3	0.25	3	0.25	加茂	0	0.00	1	0.33
春日井	5	0.56	5	0.56	豊橋市	10	1.25	10	1.25
江南	2	0.33	5	0.83	豊川	10	1.25	14	1.75
半田	0	0.00	0	0.00	新城	0	0.00	0	0.00
知多	8	1.14	26	3.71					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

病原性大腸菌 O25 3歳男

病原性大腸菌 O126 2歳男、8歳男

病原性大腸菌 O153 5歳男

エンテロウイルス感染症は減少しましたが、アデノウイルス感染症は相変わらず多く、病原性大腸菌は薬剤抵抗性が高い傾向にあり、加療に難渋しています。（特に O1、O25、O18等）

【尾西市 城後小児科】

流行性耳下腺炎一施設で流行中

【一宮市 後藤小児科医院】

マイコプラズマ肺炎 7歳女

【稲沢市 野村整形外科】

カンピロバクター 7歳男

【犬山市 武内医院】

手足口病、ヘルパンギーナの流行が続いています。

咽頭結膜炎も少数認められます。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

手足口病 多発

ヘルパンギーナも多し

無菌性髄膜炎は2例のみ

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

18歳女 マイコプラズマ肺炎

未だヘルパンギーナが流行しているようです。

【春日町 丹羽医院】

### 尾張東部地区

手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎が多くみられます。

S S S S（ブドウ球菌性熱傷用皮膚症候群） 3歳男

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

ヘルパンギーナ、手足口病流行持続

流行性耳下腺炎も再び増加

5歳女 カンピロバクター

その他マイコプラズマ感染症、小児、成人で散発

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

6歳 カンピロバクター腸炎

手足口病、ヘルパンギーナ流行 続いています。

水痘 時々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

手足口病は下火になりましたが、水痘、ヘルパンギーナがみられます。

咽頭結膜熱もみられました。

【春日井市 かちがわ北病院】

手足口病あるも髄膜炎例なし

【小牧市 小牧市民病院】

---

かわらず、手足口病が多いそうです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

アデノ咽頭炎 2 名 3 歳男、4 歳男

【東海市 東海市民病院】

夏カゼ（手足口病、ヘルパンギーナ）少数ですがあります。

水痘また増加してきてます。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

手足口病の流行続いています。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

## 西三河地区

---

2 歳男、4 歳女 2 名、5 歳女、8 歳女 イムノカードSTアデノウイルス<sup>\*1</sup>（+）

18 歳女 病原大腸菌 O166

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

\*1 イムノカードSTアデノウイルス：アデノウイルス抗原検出キット

3 歳男 サルモネラ O4 群

8 歳男 病原性大腸菌 O55

【岡崎市 医療法人深田小児科】

4 歳女 サルモネラ菌 O4 群

1 歳女 病原大腸菌 O25

【岡崎市 花田こどもクリニック】

6 歳男 ICアデノ（+）<sup>\*2</sup>

7 歳男 サルモネラ O4、病原性大腸菌 O25 VT（-）

【岡崎市 にいのみ小児科】

\*2 ICアデノ：アデノウイルス検出キット

10 歳男 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

手足口病多いが、ピークは超えたか。

アデノウイルス感染症目立ちます。

SSSS 男 2 歳

【碧南市 永井小児クリニック】

6 ヶ月男 麻疹

【西尾市 やすい小児科】

1 歳男 サルモネラ O4 腸炎

手足口病は減少

【西尾市 山岸クリニック】

9 歳女 病原性大腸菌 O1 VT（-）

12 歳男 病原性大腸菌 O18 VT（-）

【幸田町 とみた小児科】

マイコプラズマ肺炎 4 歳男

手足口病の流行がみられます。

【三好町 三好町民病院】

## 東三河地区

5歳男カンピロバクター

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

マイコプラズマ肺炎 5歳男、8歳男

【豊橋市 野村小児科】

10歳男 病原大腸菌O111 経過は良好

手足口病にて口内炎ひどく点滴施行例数例あり

【田原町 かわせ小児科】

## 1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸チフス

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	瀬戸	23	女	6 / 13	7 / 22	7 / 22		疑似症

## 全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

梅毒 1例 無症候性

夏休みをひかえて先日の講義は「海外伝染病」。SARS騒ぎで海外旅行を中止したという話もありますが、学生のうちにあちこち出掛けて欲しくも思います。コレラに気をつけるように、という話やドロボ - 、スリ・カップライ、オイハギや強盗などから自分の身の安全を守る話（小生、身にいささか覚えがありますので）までしていると授業は静かです。いつも貴重な情報を有難うございます。7月前 / 後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはヘルパンギ - ナと手足口病が多発中でマイコプラズマ感染症も多発、無菌性髄膜炎が増加傾向、第一日赤松山先生からは手足口病多発、ヘルパンギ - ナ、ムンプス散見、無菌性髄膜炎 3 例、O - 157 胃腸炎の入院例、城北病院渡辺先生からはヘルパンギ - ナ増加、CRP 上昇例でアデノ陽性例あり、高熱で時間外受診者多数（嘔吐や下痢患者散見）、水痘、ムンプス、百日咳も散見、千種区今枝先生からは手足口病（1 - 9 歳）と伝染性紅斑（3 - 8 歳）時々、水痘、溶連菌感染症、細菌性胃腸炎散発、小学生の熱と頭痛・嘔吐が 5 名、三菱病院入山先生からは感染性腸炎（O6、O18、O166、カンピロバクタ - ）が目立ち、溶連菌感染症（要入院あり）が依然として流行中、手足口病とヘルパンギ - ナは例年より少なく無菌性髄膜炎、肺炎の入院あり、中京病院柴田先生からは手足口病など夏カゼ増加、無菌性髄膜炎やアデノウイルス感染症がパラパラ入院、労災病院山田先生からは膿痂疹、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症、頭痛・嘔吐の激しい発熱、ウイルス性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギ - ナ、細菌性腸炎、水痘、マイコプラズマ肺炎、川崎病、EBウイルス感染症などが目立つ、大同病院水野先生からは手足口病が多いが中枢神経合併症はない、2 日くらいの頭痛・腹痛・発熱の夏カゼが目立つが髄膜炎は少ない、マイコプラズマ肺炎が多く、麻疹の入院がまだ続いている、とのお手紙をいただきました。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは手足口病が多発中で溶連菌感染症、カンピロバクタ - 1 例を含む感染性胃腸炎、水痘、伝染性紅斑、ヘルパンギ - ナがそれぞれ散発中、江南市昭和病院小児科からは手足口病が目立ち、アデノウイルス感染症、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎が時にあり、常滑市民病院上田先生からは水痘（要入院例あり）、ムンプス、ヘルパンギ - ナ、伝染性紅斑、細菌性腸炎（大腸菌 O - 157）、ウイルス性腸炎などが目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはアデノウイルスと思われる扁桃腺炎が目立ち、ウイルス性髄膜炎はちらほら、加茂病院梶田先生からはヘルパンギ - ナと手足口病増加、溶連菌感染症が目立ち、サルモネラ腸炎、カンピロバクタ - 腸炎、エルシニア腸炎各数名ずつあり、クル - プがやや増加、マイコプラズマ肺炎がまだ多く、ITP が続けて 3 例、知立市近藤先生からは幼稚園保育園小学校で手足口病が大流行、ヘルパンギ - ナと溶連菌感染症散見、碧南市永井先生からは手足口病流行中で髄膜炎合併例が時々あり、アデノウイルス感染症も時々あり、とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

## 2003 年 7 月 4 日 (78 巻 27 号)

麻疹：麻疹野生株の遺伝子型の新しい命名法と標準株。麻疹ウイルスの遺伝子型決定は麻疹の疫学調査、サ - ベイランス、対策立案に重要である。1998 年、WHO は遺伝子型の命名法と試験管内遺伝子決定法に関するガイドラインを発表した。

麻疹ウイルスの遺伝子型 (一覧表あり)：現在、タイプ A ~ H の 8 型に分類されそれぞれのタイプに 1 ~ 9 のサブタイプが属している (A、E、F 型は 1 サブタイプ、D 型は 9 サブタイプ)。新しい遺伝子型：01 年に D9 と G3 が新しく報告された。D9 は東チモ - ルからオ - ストラリアへ輸入された例、G3 はインドネシアの分離株である。今後は米合衆国 CDC の麻疹担当で情報網が継続される予定。

Integrated disease surveillance and response (IDSR)：ウガンダ。WHO がこの数年進めている地区単位で国別に各疾患のサ - ベイランスと対策の状況の概略。98 年にアフリカ地区、00 年に東地中海地区、01 年に東南アジア地区で開始。ウガンダの状況としては国内の保健医療関係者全を対象とした教育とサ - ベイランスへの参加、その結果に応じた対策立案が進められているが、どの疾患を優先するか、サ - ベイランス事業の評価、計画立案と政策網の IDSR へのとりこみ、計画の総合化、報告網の整備、国際機関による監視と評価など検討すべき点が多い (長文の総説。具体的な記載が少ないので抄訳)。

## 03 年 7 月 11 日 (78 巻 28 号)

不活化ポリオワクチン (IPV)：経口弱毒生ワクチン (OPV) が使用されている国に対する IPV 導入。OPV 導入で世界のポリオは激減したが有効性からポリオ野生株常在地区では継続が必要である。ポリオ根絶地区におけるポリオ罹患のリスク：OPV 継続使用による罹患。実験室内感染と IPV 製造工程における感染。OPV 由来の麻痺性ポリオ発生頻度は年間 100 万出生あたり 2 - 4 例とされスペイン、フィリピン、カリブ海地区などで発見されており IPV の実験室内感染は 3 例の報告がある。IPV 接種 (流血抗体獲得) 後、局所免疫獲得を目標として OPV 接種が北欧 (フィンランド、アイスランド、オランダ、スウェーデン) では実施されている。IPV の安全性、有効性は共に優秀。接種年齢は 2、4、6、18 ヶ月と 4 - 6 歳 (米合衆国)、2、4、6、12 - 18 ヶ月、4 - 6 歳 (カナダ)、3、5、12 ヶ月、6 歳 (スウェーデン) などとなっている (他の地区は省略) が、何回かの接種と追加接種が必要である。WHO の基本的立場：製剤基準を満たすものであること、安全性と必要性、乳幼児の場合、他の予防接種の予定と重複しない、同時接種された他のワクチンの免疫反応を障害しない、通常の取扱 (冷蔵庫保存など) 可能、価格が適当であること。などが重要である。

インフルエンザ。6 月。アルゼンチン：A 型。ブラジル：型未定。チリ：A (H3N2)、ギアナ：A (H1N1)、A (H3N2)。香港：A (H3N2)、マダガスカル：A (H3N2)、アイスランドとニュ - カレドニア、ノルウェー：いずれも散発、南アフリカ：A (H3N2) 流行中。

7 月 4 日 - 10 日届出。コレラ：コンゴ、リベリア、ウガンダ。黄熱：ボリビア、ブラジル、コロンビア、ペルー、ベネズエラ。

## 第28週(15年7月7日~7月13日)の4類感染症（全国）

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は大きく増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、また過去10年間と比較して本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県（2.4）、福井県（1.5）、富山県（1.3）、

福岡県（1.3）が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加して0.22で、過去4年間と比較してかなり多く、都道府県別では岡山県（1.6）、岩手県（1.1）が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は微減したが、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では宮崎県（3.1）、山形県（2.9）が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では広島県（24.1）が非常に多く、次いで山口県（11.1）、島根県（9.3）、静岡県（8.9）が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は前週と同値で、都道府県別では北海道（1.1）、長野県（1.0）、宮城県（0.8）が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は大きく増加し、都道府県別では宮城県（14.4）、山形県（10.4）、三重県（10.4）が多い。麻疹（成人麻疹を除く）の定点当たり報告数は前週と同値で、都道府県別では和歌山県（0.5）が多い。急性出血性結膜炎の定点当たり報告数は微増して0.05で、都道府県別では依然として宮崎県（2.0）が多い。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は増加して1.20で、都道府県別では熊本県（5.9）、岡山県（4.4）、愛媛県（3.7）が多い。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加して0.21で、都道府県別では広島県（1.1）、神奈川県（1.0）、滋賀県（0.9）が多い。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センタ - 感染症情報室提供）

詳細は感染症情報センタ - のホ - ムペ - ジ（<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>）の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

## 愛知県感染症情報

2003年第30週 (平成15年7月21日～7月27日)

愛知県衛生研究所

		定点数																									
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	S T D	基幹	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
愛知県 (名古屋市を含む)		191	182	35	51	13	0	103	158	323	208	845	62	154	2	2	475	11	156	0	19	0	0	0	4	0	0
総数 (名古屋市は除く)		121	112	24	37	12	0	74	99	218	161	725	48	127	2	2	344	9	132	0	12	0	0	0	4	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1		29	59	105	47	120	14	27			131	2	24		7						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1		2	29	14	12	15		3	1		44		13								
海部津島	津島	7	7	2	2	1			4	17	9	66	2	3			19	1	10								
尾張中部	師勝	4	4	1	1				7	13	3	9	2	5			23		4								
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		3	3	33	16	71	5	12			37		12								
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1		5	7	7	19	55	7	11			42	1	2		2						
	江南	6	6	1	2			2	9	25	8	54	4	11			21		2		2						
知多半島	半田	6	6	1	2	1			2	8	9	13	2	5			5		5								
	知多	7	7	2	2			8	8	14	18	39	6	6			27		5								
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		9	6	5	19	29	5	17			28		41								
	衣浦東部	11	11	2	4	1		5	8	8	9	82	3	14			23	2	21		2						
	西尾	5	5	1	2	1			3	5	4	20	2	7		1	6	5	4								
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1		20	2	5	13	41	7	7	1		17		3		1						
	加茂	3	3		1					1	3	15				1	7		2								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1		10	6	34	4	105	1	17			17		1						3		
	豊川	9	8	1	2	1		10	5	29	13	110	2	8			28		6		5				1		
東三河北部	新城	2	2			1					2	1		1					1								



2003年第30週 (平成15年7月21日～7月27日)

愛知県衛生研究所

[illegible]

## 愛知県感染症情報

2003年第1週～第30週(平成14年12月30日～平成15年7月27日)(累計)

愛知県衛生研究所

		定点数																									
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	S T D	基幹	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
愛知県 (名古屋市を含む)		191	182	35	51	13	47,885	932	6,371	25,004	10,526	7,857	1,129	3,796	41	44	4,712	120	3,361	29	682	1	5	8	107	0	3
総数 (名古屋市は除く)		121	112	24	37	12	38,580	689	4,601	17,153	8,439	6,730	892	3,052	32	28	3,289	92	2,694	24	513	1	5	7	103	0	3
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	9,305	243	1,770	7,851	2,087	1,127	237	744	9	16	1,423	28	667	5	169			1	4		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,755	53	730	1,023	388	139	20	169	4	1	370	4	312	1	31						
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,341	40	87	1,206	459	801	49	146	1		196	2	112		16				9		
尾張中部	師勝	4	4	1	1		1,378	7	106	1,047	117	139	19	76		5	334	1	95		10						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,712	20	338	2,101	687	616	107	364	5	1	229	2	208	1	15			1			
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4,291	48	366	1,147	537	570	116	264	3	2	304	4	243	1	38	1	2	2			1
	江南	6	6	1	2		1,520	32	281	1,602	487	524	74	221	1	1	130		84		28						
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,915	16	167	621	183	60	12	162		1	118	1	180		12		1		10		2
	知多	7	7	2	2		2,364	81	423	1,161	585	232	54	223		1	242	27	68	2	29						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	4,159	21	280	177	861	428	83	354	4		256	1	399	3	45						
	衣浦東部	11	11	2	4	1	5,878	42	354	1,150	1,048	670	86	286	4	1	282	11	470		79			2	7		
	西尾	5	5	1	2	1	1,190	11	216	608	402	273	67	125	1	2	114	7	127		36			1	5		
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	2,409	50	204	1,135	766	278	41	175	6	10	216	8	222	7	88			1	27		
	加茂	3	3		1		489	15	198	383	132	82	5	35		3	57		37								
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	3,088	188	543	2,341	803	950	89	259	1		212	14	36	7	54		2		21		
	豊川	9	8	1	2	1	2,839	65	306	1,451	936	949	70	175	2		228	7	84	2	32				24		
東三河北部	新城	2	2			1	252		2		48	19		18			1	3	17								

2003年第1週～第30週(平成14年12月30日～平成15年7月27日)(累計)

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
計	38,580	689	4,601	17,153	8,439	6,730	892	3,052	32	28	3,289	92	2,694	24	513	1	5	7	103	0	3
～6ヶ月	518	5	8	191	215	51	4	252	5		45	2	2		1	/	/	/	/	/	/
～12ヶ月	1,096	20	23	1,098	504	317	32	1,857	9	2	295	16	16		11	/	/	/	/	/	/
0歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1		1		
1歳	3,227	121	115	2,642	1,502	1,180	55	870	6	3	809	19	116		12				10		
2歳	3,245	108	263	1,965	1,424	1,152	76	62	3	2	587	7	198	1	12				9		
3歳	3,321	107	566	1,942	1,554	1,285	99	4	2	1	594	6	414	2	16				10		
4歳	3,516	94	865	1,718	1,506	1,176	126		3	2	424	6	549		8				9		
5歳	2,262	88	871	1,332	916	767	129	1	1	5	279	3	530	1	12		/	/	/	/	/
6歳	1,825	43	676	973	383	350	122	2			115	7	314		2		/	/	/	/	/
7歳	1,466	36	377	760	152	161	76		1	4	52	2	184		3		/	/	/	/	/
8歳	1,304	27	270	627	101	99	73	3		3	23	3	125		5		/	/	/	/	/
9歳	1,336	12	152	484	54	42	30			1	24	2	67		3		/	/	/	/	/
5歳～9歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		2	20		
10歳～14歳	4,859	9	202	1,086	82	60	52	1	2	1	19	14	108	1	22				19		
15歳～19歳	1,573	3	18	297	8	5	1				4	3	10		23				3		
20歳～	/	16	195	2,038	38	85	17			4	19	2	61	/	/	1	4	/	/	/	/
20歳～29歳	2,768	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	9	81	/	/	2	6		2
30歳～39歳	3,054	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		1	106	/	1	7		
40歳～49歳	1,182	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		2	53	/	2	4		1
50歳～59歳	892	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		3	70	/		1		
60歳～69歳	597	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		1	41	/		2		
70歳～	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	32	/	/	/	/	/	/
70歳～79歳	352	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		1		
80歳以上	187	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		1		